

# 「戦争と医の倫理」の検証を

## 医師・医学者ら「進める会」を設立



作家の森村誠一氏、聖路加国際病院の日野原重明理事長からもメッセージが寄せられた（9月27日）

かつて医師・医学者らが戦争に加担した史実を検証し、人権を基本とした医療・医学の発展と「医の倫理」の向上をめざそうと、「戦争と医の倫理」の検証を進める会「設立大会」が9月27日、東京大学医学部総合中央館を会場に開催された。

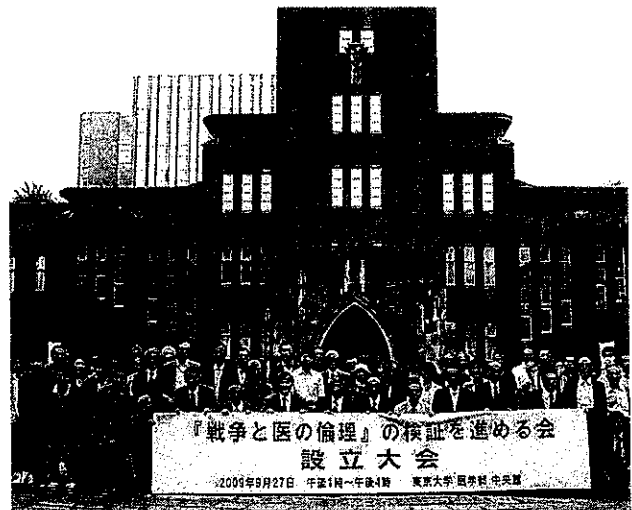
当日は、医師、医学者を始め、医療労働者、医学生、弁護士など92人が参加した。かつて医師・医学者らが戦争に加担した史実を検証し、人権を基本とした医療・医学の発展と「医の倫理」の向上をめざそうと、「戦争と医の倫理」の検証を進める会「設立大会」が9月27日、東京大学医学部総合中央館を会場に開催された。

当日は、医師、医学者を始め、医療労働者、医学生、弁護士など92人が参加した。「非人道的行為が罪の

意識もなく行われていた。この事実を今につながる問題として考えてほしい」と話した。

大会では、塩安佳樹東京保険医協会会長、石川徹東京民医連会長など3氏を代表世話人に、住江憲真保団連

採択された設立趣意書は、「戦時中の医学者・医師による非人道的行為に真摯に向き合い教訓に活かす取り組みがなされないまま、日本は21世紀をむかえました」と指摘。「史実を明らかにし、検証を進めることは、医の倫理の確立やこれからの医学・医療のために不可欠であり、そのためには日本医学会や日本医師会、各学術や大学が自らの問題として取り組むことが欠かせないと強調している。



大会終了後、安田講堂前で参加者による記念撮影

会長を事務局長に選出した他、常任世話人に赤羽根巖協会副会長、小俣和一郎会員（文京区）他を選出した。また、大会終了後には、安田講堂前で参加者による記念撮影が行われた。かつて医学界をあげて侵略戦争に協力していくうえで、当時の日本医学会総会が大きな役割を果たしたが、なかでも1942年の第11回日本医学会総会では、石井四郎731部隊長が軍服姿で参加し、安田講堂前で記念撮影を行った。今回の記念撮影は、これらに対する痛切な反省と検証を決意する意味から、あえて同じアングルでの撮影となった。